



＜今月の1枚＞ヨット・カヌー試乗会

21 世紀型スキルの育成を目指す

これまでの知識偏重の教育では、予測困難な 21 世紀社会に対応していくことは不可能であるという問題意識から、2009 年に ATC21s (Assessment and Teaching of Twenty-First Century Skills Project) が「21 世紀型スキル」を提唱しました。

「21 世紀型スキル」は、「① 思考の方法 (Ways of Thinking)」「② 仕事の方法 (Ways of Working)」「③ 仕事のツール (Tools for Working)」「④ 社会生活 (Skills for Living in the World)」の 4 つのカテゴリーで構成されており、「21 世紀を生きるために必要なスキル」として定義されています。

近年、生成 AI の日常生活への急速な浸透により、情報の真偽を適切に判断し、活用する能力は、以前にも増して必要とされています。また、メールやチャット等による非同期コミュニケーションの普及に伴い、相手に意図を正確に伝えることや相手の意図を正確に理解し、協働して成果を生む能力が求められています。

学校教育の場においても、「答えを知っている」ことよりも、知識をつなげて答えを導き出す力や新たな問いを立てる力が重視されるようになってきました。これからの時代を生きる子どもたちには、自分の学び方を自分で改善する力を身に付け、多様性に適応しながら主体的に自己のキャリアを設計することが求められています。

砂川学園では、義務教育 9 年間を見据えて、成長段階に応じたねらいと学習内容を設定し、課題解決型の探究学習を通じて、これらのスキルの育成を目指しています。探究的な学習のプロセスは、「課題の設定」－「情報の収集」－「整理・分析」－「まとめ・表現」が基本となります。各教科等の学習で身に付けた資質・能力を生かし、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えさせる活動を通して、「21 世紀型スキル」の育成を図ってまいります。

探究学習のテーマとして地域社会を基盤とした内容を設定することにより、子どもたちは、自分自身の生き方を考えるとともに、地域社会に対する理解を深め、課題を解決するための方法を考え、行動しようとする態度を身に付けることが可能となります。

地域課題の解決に向けて、地域の人々と関わり、真剣に取り組む経験をした子どもたちが、「21 世紀を生きるために必要なスキル」を身に付けるとともに、地域への愛着を持ち、地域に貢献するための行動を起こすことができるようになることを期待します。

砂川市教育委員会指導参事 神 島 亘 基